

「小児歯科は子育てと教育の最前線？ ～子どもを本当に健康に育てるために～」

こいし・こども矯正歯科 理事長／小児歯科ランド発起人 小石 剛

■開催日時 : 令和7年11月14日 10:30~12:00

■会場 : ホテル阪神大阪 クリスタルルーム



子どもを健やかに育てるためには？「共に学び、共に育ち、共に支える」“3つの共”が欠かせないと言われています。現代社会ではその「共」が失われ、保護者も孤立しがちです。本講演では、小児歯科の現場で見える子どもたちの心と身体の育ちのサインを紹介しながら、親子を支える支援のあり方や、地域・幼稚園・歯科医院の連携の可能性についてお話します。自らの失敗と再起を通して見出した「本当に大切なものを大切にする」という軸から、子どもを笑顔にする地域活動の実践を交え、保護者様・園関係者様が明日からできる関わり方のヒントをお届けします。小児歯科は、教育と子育て支援の“伴走者”であり、幼稚園とともに地域のHUBとして機能できる場所ということもお伝えします。

子どもと母の“心と口”を育てる小児歯科の力

～幼稚園と歯科がつなぐ、地域まるごとの子育て支援～

小児歯科医として診療に携わってきた私は、日々、子どもたちの口や身体、そして心の変化に向き合っています。

今回の講演では、「小児歯科を教育と子育て支援の最前線として活用してほしい」という想いと、その背景にある私自身の経験、そして地域や幼稚園との連携への願いを込めてお話しました。

絶望からの再起と「みんな笑顔で仲よし」の組織づくり

私は25歳で父から医院を引き継ぎましたが、理想とは裏腹にスタッフとの関係が悪化し、「大量退職」という「大失敗」を経験しました。すべてが暗闇に包まれる中、「本当に手に入れたい未来は何か？」と自問自答する日々が続きました。

転機となったのは、ウィリアム・グラッサー博士の「選択理論心理学」との出会いです。人は「5つの基本的欲求」を満たすために行動すること、そして変えられるのは自分の「考えと行動」だけであると知りました。

そこから、スタッフの欲求を満たし、医院の理念である「『みんな笑顔で仲よし』」をスタッフ全員の「上質世界」の中心に据える組織づくりに舵を切りました。キャリアアップ制度や研修サポート、残業なし・有給消化100%の環境整備など、「スタッフ中心」の経営を徹底した結果、スタッフの退職はゼロになり、主体的に協力してくれる「パートナー」としての関係を築くことができました。

小児歯科の新たな役割(1)：母親の「心」を支える

強固な組織という土台ができたことで、私たちは改めて「子ども・母親・歯科の問題」に向き合えるようになりました。

現代の子育ては、「共食・共育・共感」という「三つの共」が失われ、「孤育て」が深刻です。その現実には数字にも表れており、日本の高校生の自己肯定感は国際比較で著しく低く、10代の死因1位は「自殺」です。さらに衝撃的なのは、「出産後1年以内の妊産婦死亡」の原因トップも「自殺」（28.6%）であることです。



私たちは、虫歯を治す以前に、まず母親の「心」を支えることが最重要だと考えました。そこで実践しているのが「ママほめ」です。「連れて来るだけでもすごい！」と、母親のがんばりを承認し、「心に貯

金をして帰す」ことを徹底しています。母親が笑顔になれば、子どもも笑顔になります。

小児歯科の新たな役割(2)：子どもの「口（発育）」を育てる

もう一つの深刻な問題が、子どもたちの「歯列・咬合の問題」です。これは単なる見た目問題ではなく、その背景には「顎の成長不足」があります。

顎の成長が悪いと気道が狭くなり、口呼吸が常態化します。すると「深い睡眠」がとれず、睡眠中に分泌される「成長ホルモン」が不足し、脳の冷却も妨げられます。これが「呼吸・姿勢・睡眠・学習・発達」のすべてに悪影響を及ぼすのです。

何より重要なのは、そのタイムリミットです。「顎の成長は9歳までで90%終了」し、「顔の成長は9歳まででほぼ完了」します。だからこそ、私たちは「8歳までにスタート」する早期介入、すなわち治療（リハビリ）ではなく、正しい機能を獲得する「ハビリテーション」が必要だと訴えています。「歯並びは成長のアラート（警告）」であり、Myobraceなどの装置を使いながら鼻呼吸を育てることが、子どもの「生涯の健康（Well-Being）」に直結するのです。

幼稚園と歯科がつなぐ、地域まるごとの子育て支援

これらの問題は、一歯科医院だけで解決できるものではありません。

幼稚園は、子育て支援の最たる拠点です。そして小児歯科は、0歳から長期的に家族と関わり、発育を支える「子育て支援・子どもの教育の最前線」です。

この2つが連携し、「『子どもの健康と教育』をテーマに協働」すれば、家庭を支える力は格段に高まります。私たちはその実現のために、「親子フェス」や多職種でのタウンミーティングを開催し、「小児歯科ランド構想」を掲げています。

どうか、小児歯科検診を「治療」のためではなく、「教育と発育の場」として、「子育ての当たり前」として活用してください。

子どもと家庭が困ったとき、そこにいるのが“歯医者さん”である未来を、皆様と共に創っていきたく願っています。

講演を通して、小児歯科が子どもの教育と健康を支える場所であり、保護者が安心して頼れる場所だと感じていただけたなら、それ以上の喜びはありません。



この出会いが、地域まるごとで子育てを支える、新たな連携のきっかけとなることを願っています。